

第三者審査

「富士通グループ環境報告書2016」および「富士通グループCSR報告書2016」は、開示内容の信頼性確保のため第三者機関ビューローベリタスジャパン株式会社による審査を受け、検証報告書を掲載しています。

温室効果ガス排出量検証報告書

富士通株式会社 御中



2016年6月28日

ビューローベリタスジャパン株式会社
システム認証事業本部

ビューローベリタスジャパン(以下、ビューローベリタス)は、富士通グループ環境報告書2016において富士通株式会社(以下、富士通)により報告される2015年度の温室効果ガス排出量に対して検証を行った。

1. 検証範囲
富士通はビューローベリタスに対し、以下の温室効果ガス排出量情報の正確性について検証し限定的保証を行うことを依頼した。

- 1) スコープ1及びスコープ2 温室効果ガス排出量
 - ・富士通及び国内グループ会社26社、海外グループ会社3社の事業活動に伴う、2015年4月1日から2016年3月31日の期間におけるエネルギー起源CO₂排出量
 - ・半導体製造を行う富士通グループ国内3拠点の事業活動に伴う、2015年4月1日から2016年3月31日の期間におけるHFC、PFC、SF₆、NF₃排出量
- 2) GHG Protocol Corporate Value Chain (Scope3) Accounting and Reporting Standardに基づいて算定及び報告されたスコープ3排出量のうち、カテゴリ1-4、11の排出量。但し、各カテゴリにおける算定範囲は富士通の決定に基づく。

2. 検証方法
ビューローベリタスは、ISO 14064-3(2006): Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the validation and verification of greenhouse gas assertionsの要求事項に従って検証を行った。ビューローベリタスは、限定的保証の一環として以下の活動を行った。

- ・温室効果ガス排出量を特定し算定する責任のある富士通の関係者へのインタビュー
- ・温室効果ガス排出量を決定するために用いられた情報に対する、富士通の情報システムと収集・集計・分析方法の確認
- ・温室効果ガス排出量の正確性を確認するための元データのサンプル監査

3. 結論
実施した検証作業とプロセスによれば、温室効果ガス主張が以下であることを示す証拠は認められなかった。

- ・著しく正確性を欠き、対象範囲における温室効果ガス排出量データを適切に表していない
- ・富士通が定めた温室効果ガス排出量算定方法に従って作成されていない

検証された温室効果ガス排出量		
スコープ1	スコープ2	スコープ3
189.4 kt-CO ₂ e	686.4 kt-CO ₂ e	6,767 kt-CO ₂ e

スコープ3排出量の内訳は以下の通り。
 カテゴリ1: 2,317 kt-CO₂e | カテゴリ4: 43 kt-CO₂e | カテゴリ11: 4,407 kt-CO₂e

【独立性、公平性及び力量の声明】
 ビューローベリタスは、独立保証業務の提供に180年の歴史を持つ、品質・健康・安全・社会・環境管理に特化した独立の専門サービス会社です。検証チームメンバーは、当該任務の要求の範囲外において、富士通とのビジネス上の関係は有していません。ビューローベリタスは、日常業務活動におけるスタッフの高い倫理基準を維持するため、倫理規定を導入しています。検証チームは、環境・社会・倫理・健康・安全の情報・システム・プロセスに対する保証について広範な経験を有しています。

富士通グループCSR報告書2016
富士通グループ環境報告書2016
第三者検証報告書

富士通株式会社 御中



2016年7月22日

ビューローベリタスジャパン株式会社
システム認証事業本部

ビューローベリタスジャパン株式会社(以下、ビューローベリタス)は、富士通株式会社(以下、富士通)の責任において作成された「富士通グループCSR報告書2016」「富士通グループ環境報告書2016」(以下、レポート)に記載されるサステナビリティパフォーマンス指標のうち、富士通から要請のあったものに対して検証及びレビューを実施した。検証の目的は、レポートに記載されるサステナビリティパフォーマンス指標の信頼性及び正確性を客観的に基づき評価し、独立した立場から限定的保証意見を示すことである。レビューの目的は、レポートに記載されるその他のサステナビリティパフォーマンス指標の品質について、報告の改善のための評価を行うことである。

1. 検証及びレビューの概要
 ビューローベリタスは、富士通との合意に基づき、以下の検証及びレビューを実施した。
 2015年度の事業活動に基づく社会及び環境パフォーマンス指標に対する検証とレビュー

対象指標	訪問サイト	検証及びレビュー手続
別紙1「対象とした社会パフォーマンス指標の一覧」に記載された全ての指標	・富士通 本社事務所 ・富士通 本店	・富士通本社によって策定された文書類の確認 ・責任者・担当者へのインタビュー ・収集・報告されたデータと根拠資料との突き合わせ
別紙2「対象とした環境パフォーマンス指標の一覧」に記載された全ての指標	・富士通 本店 ・株式会社PFU 本社/石川開発センター ・新元電気工業株式会社 更田工場 ・富士通フロンテック株式会社 新島工場 ・Fujiitsu Computer Products of Vietnam, Inc.	・富士通本店及び訪問サイトによって策定された文書類の確認 ・責任者・担当者へのインタビュー ・現場査察及びデータの計画プロセスに対する評価 ・収集・報告されたデータと根拠資料との突き合わせ

検証は、現時点での最良の事例に基づき、ビューローベリタスが定める非財務情報報告に対する第三者検証の手順とガイドラインを使用して実施された。ビューローベリタスは、本報告書に示された範囲に対して限定的保証を行うにあたり、国際保証業務基準 (ISAE) 3000を参考にした。
 レビューは、ビューローベリタスが定めるサステナビリティ報告に対する第三者レビューの手順を使用して実施された。

2. 検証及びレビューの結果
 上述した検証の方法及び活動によれば、

- ・検証及びレビューにおいて確認した情報が正確でない、及び対象期間における実績を適切に反映していないことを示す事項は発見されなかった。
- ・富士通は、検証及びレビュー対象範囲の定量的なデータについて、収集・集計・分析のための適切な仕組みを構築していると考えられる。

ビューローベリタスは、全社員の日常業務活動において高い水準が保たれることを目指すためのビジネス金銭にわたる倫理規定を定め、特に利害の対立を避けることに配慮しています。富士通株式会社に対するビューローベリタスの活動は、サステナビリティ報告に対するものだけでなく、我々の検証業務がなんら利害の対立を引き起こすこととはないと考えます。

別紙 1

対象とした社会パフォーマンス指標の一覧

検証対象指標	ページ
女性リーダー育成プログラム受講者数	12
女性幹部社員比率	13・47・66
障がい者雇用率	13・48・66
制度利用者数	13・55・67
グローバルなビジネスリーダーの育成	
次世代ビジネスリーダー育成プログラム受講者数	13
近隣住民との定期的なダイアログ実施状況(回数)の実績	14
地域社会貢献活動に関する社内データベース登録件数	14
ISO28000を活用したCSR活動	
ISO アンケート対象範囲(グループ会社数等の数値)の実績	17
取締役数	25・63・96
度数率(災害発生率)	59・67
従業員数、平均年齢	66・93・98
年齢層別従業員数	66
新卒採用者数	67
地域別従業員数	68・97
平均勤続年数	67
お取引先とともに「CSR調達の推進」(書面調査社数)	79

別紙 2

対象とした環境パフォーマンス指標の一覧

検証対象指標	ページ
新製品のなかでエネルギー効率トップレベルである製品が占める割合	25
新製品の資源効率の向上率	27
事業所における温室効果ガス(CO ₂ ・CO ₂ 以外)の排出量	34
事業所におけるエネルギー消費原単位の改善率	38
輸送 CO ₂ 排出量 ※富士通(株)および国内グループ会社	41
水使用量	41
PRTR および VOC の排出量	43
廃棄物発生量	44
廃棄物有効利用率	
事業系使用済み ICT 製品の資源再利用率	46
INPUT(設計・調達・開発)	
水	
エネルギー	
INPUT(再資源化)	
資源再利用率	
化学物質	
OUTPUT(設計・調達・製造・開発)	
大気排出 温室効果ガス合計	
大気排出 CO ₂	
大気排出 CO ₂ 以外の温室効果ガス	
廃棄物発生量	
サーマルリサイクル量、マテリアルリサイクル量	
廃棄物処理量	
OUTPUT(物流) 大気排出 CO ₂ ※富士通(株)および国内グループ会社	
Scope3(上流) 輸送・配送 ※富士通(株)および国内グループ会社	
Scope1(自社) 直接排出	
Scope2(自社) エネルギー起源の間接排出	
Scope3(上流) 購入した製品・サービス	
Scope3(下流) 販売した製品の使用	
Scope1 および Scope2 のエネルギー使用量	59
レビュー対象指標	ページ
ICT の提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減貢献量	22
輸送における売上高あたりの CO ₂ 排出量の削減率	38
輸送 CO ₂ 排出量 ※海外グループ会社	
環境会計	56
INPUT(設計・調達・開発)	
化学物質	
INPUT(物流) エネルギー	
OUTPUT(物流) 大気排出 CO ₂ ※海外グループ会社	57
Scope3(上流) 輸送・配送 ※海外グループ会社	58